

亘理山元統合消防庁舎建設事業【基本計画概要版】

1 亘理山元統合消防庁舎建設の目的

岩沼市・亘理町・山元町では、地域の安全・安心をより確かなものにするため、消防の広域化を進め、平成31年4月に「あぶくま消防本部」が発足しました。

この広域化により、出動体制が一元化され、必要に応じて多くの消防車両や隊員を迅速かつ適切に出動させることが可能となり、消防力の強化が図られました。

しかし近年、地震や集中豪雨などの自然災害の頻発・大規模化に加え、救急出動の増加や業務内容の高度化など、消防を取り巻く環境は大きく変化しており、住民の皆さまから消防に寄せられる期待や役割は、これまで以上に高まっています。こうした中、現在の亘理消防署及び山元分署の庁舎は、いずれも建設から長い年月が経過しており、施設の老朽化が進んでいます。加えて、耐震性能や設備面においても、近年の大規模災害や多様化する消防・救急需要に十分対応するためには課題がある状況です。また、消防車両は建築時と比べ大型化して車庫が手狭となり、迅速な出動の支障となっていることも課題となっています。

このため、以前から両消防署の建て替えについて検討が行われる中、将来の人口減少社会への対応を考慮し、両庁舎を1か所に統合して整備する方針が示され、この整備計画（「亘理山元統合消防庁舎基本計画」）がまとまりましたので、今後、この計画に基づき、亘理山元統合消防庁舎を建設する予定です。

2 現状の課題

現在の亘理消防署及び山元分署は、ともに築55年を経過し、施設や設備の老朽化により来客設備、待機施設及び訓練施設等の改善が困難になっているほか、耐震性能の不足もあり、その対応が課題となっています。

また、消防車両の大型化や台数の増加により、車庫や活動スペースが手狭となっているほか、職員の執務・待機環境についても改善が必要となっています。さらに、女性隊員のプライバシーに配慮した設備が十分ではなく、これら勤務環境の整備が課題となっています。

主な課題	内容
老朽化・耐震性不足	庁舎・設備の老朽化、耐震性能の不足
狭あいな庁舎・車庫	車両・職員増に対応困難、女性隊員用設備の不足
バリアフリー・感染症対策	感染症対策が未整備の仮眠室、バリアフリー等の現代的仕様に未対応
訓練塔の劣化	訓練塔の著しい腐食と老朽化（安全性に問題があり使用不可）



老朽化した庁舎のひび割れ



感染症対策が未整備の仮眠室



消防車両の大型化により手狭になった車庫

3 統合消防庁舎整備の基本的な考え方

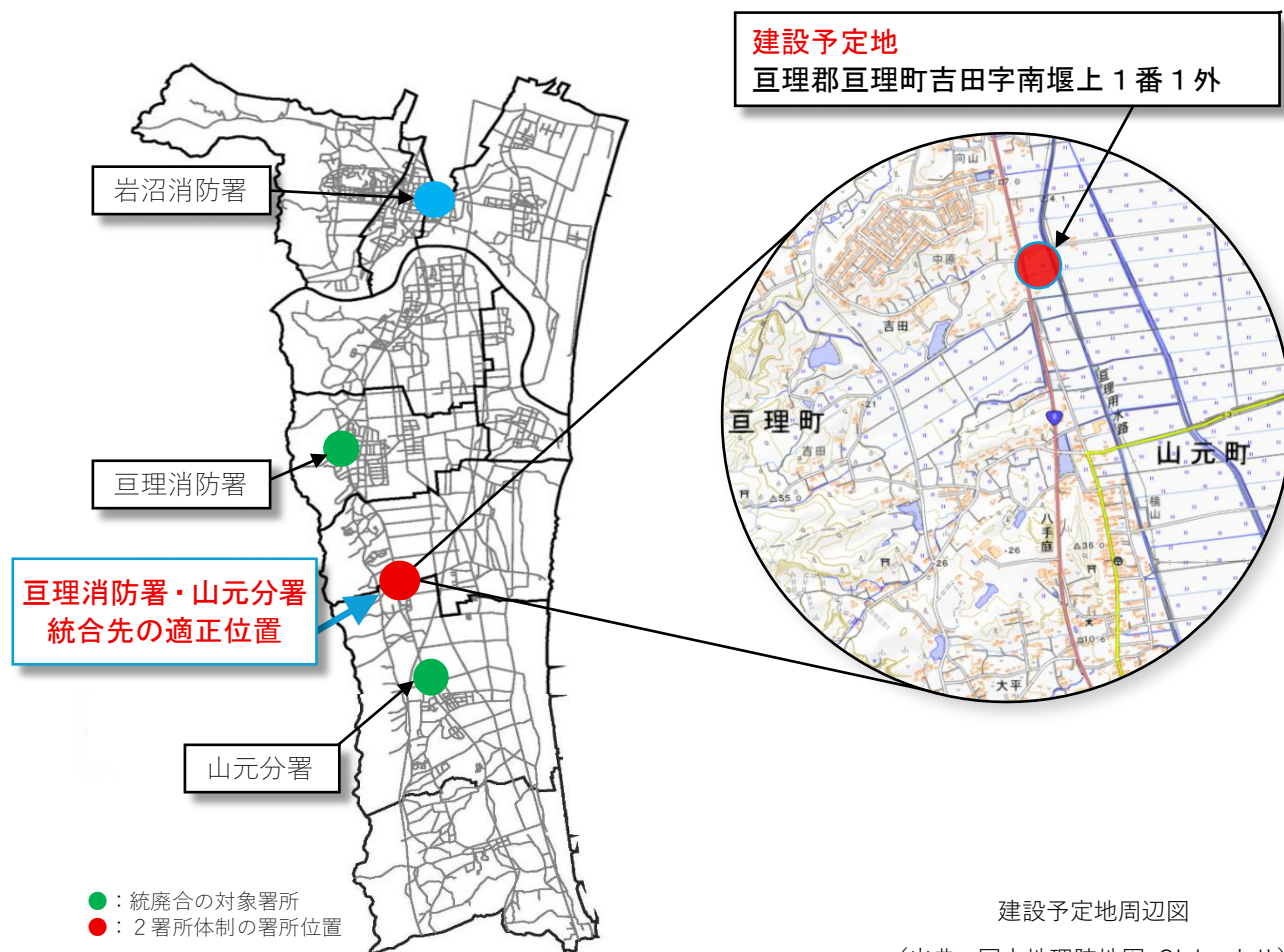
こうした課題に対応するため、単に既存庁舎を更新するだけではなく、亘理町・山元町全体を見渡した消防力の在り方を検討するため、当消防本部における消防力の適正配置について専門機関に委託し、今後の消防力整備について調査を行いました。その結果を踏まえ、現状の諸課題に対応し、将来にわたって地域の消防・防災体制を維持・強化していくため、亘理消防署と山元分署を統合する方針を定めました。

統合にあたっては、将来の人口動向や財政状況も見据えながら、限られた人員や財源を有効に活用し、持続可能で効率的な消防体制を構築することを基本としています。併せて、平時の火災・救急対応はもとより、地震や風水害などの大規模災害時にも機能を維持できる防災拠点としての役割を強化していきます。

4 建設予定地

建設予定地の選定にあたっては、亘理町と山元町の両町への出動のしやすさ、主要幹線道路へのアクセス性、災害時の安全性などを総合的に考慮しています。

また、消防力適正配置等調査の結果も踏まえ、特定の地域だけでなく、管内全体に対して効率的な消防サービスを提供できる位置であることを重視しています。住民の皆さまの安全・安心を将来にわたり支える拠点として、利便性と防災性の両面から適切な場所を選定しました。



5 統合消防庁舎整備により期待される効果

新たな統合消防庁舎を整備することで、災害時における防災拠点機能の強化、消防・救急活動における隊員や車両の効率的な配置が期待されます。特に、複数の活動部隊が連携して出動しやすい体制を整えることで、火災や救急、救助活動における初動体制が増強されます。

また、非常用電源や資機材の備蓄機能などを充実させることで、庁舎自体が被災しにくく、災害時にも継続して活動できる体制づくりにつながります。さらに、施設の集約により、維持管理面での効率化も見込まれます。

6 施設整備の概要

新庁舎には、消防・救急業務に必要な執務スペース、車庫、資機材保管スペースのほか、災害対応を支える災害対策室や会議・待機機能などを備えることを計画しています。

また、感染症対策や隊員の勤務環境の改善、女性隊員にも配慮した施設整備、バリアフリー対応など、時代に即した庁舎機能の導入を進めていきます。なお、施設の規模や詳細な配置等については、今後の設計段階においてさらに具体化していきます。

施設区分	主な内容
施設規模	施設合計延床面積 約 3,300 m ² 敷地面積 約 9,000 m ²
消防庁舎棟	事務室、多目的大会議室、災害対策室、仮眠室（個室）、女性隊員専用区画等
車庫棟	緊急車両 11 台分
訓練施設	主訓練塔 1 棟、副訓練塔 1 棟
駐車場	来庁者用・職員用外 約 90 台分
附帯施設	訓練用水利、ホース乾燥塔、一般廃棄物・医療廃棄物保管庫、危険物貯蔵所、駐輪場等
設備関係	バリアフリー、省エネ設備（太陽光発電等）

7 概算事業費及び財源

基本計画における概算事業費は、現時点で約 23 億 8,200 万円を見込んでいます。消防庁舎建設に係る事業費の財源については、緊急防災・減災事業債（充当率 100%、地方交付税措置率 70%）を活用し、財政上の優遇制度を最大限活用して事業を進めていきます。なお、今後の設計の進捗や物価高騰、関係機関との協議等により、事業費は変動する場合があります。

項目	内容
概算事業費	約 23 億 8,200 万円
主な内訳	用地取得費、造成工事費、建築基本設計・実施設計料、建築工事費、旧庁舎解体撤去費など
主な財源	緊急防災・減災事業債（充当率 100%、地方交付税算入率 70%）の地方債を活用

8 統合消防庁舎整備スケジュール

今後は、基本設計・実施設計、用地や造成に関する準備、建設工事といった段階を経て、供用開始を目指して事業を進めていく予定です。現時点では、設計や各種手続を着実に進めながら、住民の皆さまへの説明や関係機関との調整を丁寧に行い、事業全体の円滑な推進に努めていきます。

主な内容	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度
用地選定						
造成設計						
用地取得						
建築設計						
造成工事						
建築工事						
新庁舎供用開始						
旧庁舎解体撤去						

9 住民の皆さまへの影響と配慮

建設工事にあたっては、工事車両の通行、騒音、振動など、周辺地域への影響ができる限り小さくなるよう配慮していきます。

今後も、事業の進捗状況について当組合ホームページなどを通じてお知らせしながら、丁寧に取り組んでまいります。

10 お問い合わせ先

〒989-2351

宮城県亶理郡亶理町字祝田 34 番地 2

亶理地区行政事務組合 総務課消防施設整備室

TEL：0223-36-7701

FAX：0223-34-7772

E-mail：s-seibishitsu@wgyosei.miyagi.jp